

脳の解剖図を見て

校長 五十嵐 吉春

暑くて、長い夏休みも終わりました。皆さん、いかが過ごしたでしょうか。「一番やりたくない宿題・課題からじっくり取り組んでみて下さい。」と話した終業式のことを覚えていたでしょうか。そして実行してみてくださいでしょうか。

さて、私も夏休みに入ったある日、少し時間のゆとりもできたことから新潟市南区味方(旧味方村)にある”旧笹川邸”を見学に寄ってみました。(実は前々から一度は見てみたいと思っていた場所です。)とても暑い日の午後で、入館者は私一人でした。くまなく豪邸をみて廻って帰ろうとしたら、案内板に”曾我・平澤記念館”も併設されているとのことで、そちらにも立ち寄りしました。平澤 興(ひらさわ こう)先生の著書「山はむらさき」(たしか教育に関する小冊子)は以前にも読んだことがあったので興味深く拝見しました。

少し平澤 興氏について紹介します。

明治の後半に、新潟県味方村に生まれ京都帝国大学医学部を卒業。その後、助教授・教授となり欧米に留学した後、新潟医科専門学校の教授も務められ最終的には、京都大学総長にまでなられた方です。もちろん、専門は医学の脳外科でありますが沢山の著書(専門に限らず教育論や人生論等多数)を著し、味方村の名誉村民となり平成元年83歳で亡くなりました。

その平澤氏の遺品等が数多く陳列されていたのですが、その中にとってもとても驚かされたものがありました。驚愕の品というか感動まで覚えるものでした。それは、学生時代(欧米留学中)に模写した「脳の解剖図」であります。トレーシングペーパーという半透明な用紙に、脳の断面図なのでしょう。色彩も鮮やかに、正確に事細かに描かれているのです。用紙一杯に小さな解説や名称が、英語なのかドイツ語なのかよくわからないのですが記述されていました。これが本当に手書きのものなのかと目を疑うほどのものです。今の時代ならコンピュータですが、実際に人間が”手書き”であそこまで描写できるものなのか信じられないほどのものでした。

とても貴重なものでしょうから当然、ガラスケースで管理されていました。そこに書かれてあった解説を思い起こすと次のような内容になります。

「学ぶということは、分かったような気がするだとか、分かったつもりであるでは・・・まだ、本当にはわかっていない。」「妙なことをいうようだが、何十年も人体の構造を研究してきた私ではあるけれど・・・わかっているようで、いまだによくわからない。」また留学中、師事したスイスのモノコフ教授からも「平澤君はこんな解剖図でわかったつもりかね!いや、分かっているとは思えない。分かったと分かったつもりとは違うのだよ!」と厳しく指導されてからは、一日中そして何週間、何ヶ月も顕微鏡を覗く毎日だったそうです。1枚の標本のスケッチを3ヶ月かけて描いたそうです。

「学問に王道はなし」、勉学に励む真の姿、学ぶという姿勢をその平澤記念館で私自身あらためて感じ取ることができたように思います。この不思議でとても新鮮な気持ちを皆さんにどうしても伝えたくて今日の話となりました。

さあ、まだまだ暑い日が続きますが二学期も頑張りましょう。



2学期の抱負 ~ 各学年代表の発表から

2学期の抱負

1年2組 岡田 泰輝

長く暑い夏休みが終わりました。部活動では、卓球部顧問の更科先生に注意されることもありましたが、毎日とても有意義に過ごすことができました。夏休みの課題は思った以上に量が多く大変でしたが、無事に終わらせることができよかったです。

私は2学期、2回ある定期テストに向けて頑張りたいと思います。1学期以上の点数を取るために、家庭学習の時間を増やし、分からない問題をなくしたいと思います。

1学期の定期テストでは理科のテストで分からないところがあり、全ての解答欄には記入できませんでした。これは復習したり、教科書を見直すことが足りなかったからです。学校から帰ったらまず机に向かい、復習などを中心にこなして「これで完璧だろう」と思えるくらい気持ちの余裕が持てる状態でテストに臨みたいと思います。教科書の内容をよく読むことも大切なので、そこも徹底して、2学期の定期テストでは空欄がなくなるように努力したいと思います。

もう一つがんばりたいことは、授業態度・生活態度をよりよいものにすることです。1学期は授業中に私語をせず、先生の話聞き、授業に参加することができました。1学期にできたことは2学期も継続し、更に、積極的に発言するように努めたいと思います。生活態度では、あいさつを誰にでも恥ずかしくなく、忘れず、積極的にしたいです。毎日20回を目標にして、クリアできるようにしていきたいと思います。

部活動、勉強を通して規則正しい生活をし、友情を深め、信頼しあえる関係を築いていきたいと思います。



2学期への抱負

2年2組 小林 由佳

私が2学期にがんばりたいことは3つ、勉強・体育祭・合唱コンクールです。

まず勉強についてです。1年生のとき、私は勉強が嫌いでした。そしてテストが近づいてくると、焦って落ち着かない状態で勉強しているという感じでした。今も勉強は好きではありませんが、あとから後悔しないように、これからは毎日少しずつでも確実にやっていこうと思います。

次に体育祭や合唱コンクールについてです。今までは行事などみんなで何かをするとき、「めんどくさいな」とか「やりたくないな」とばかり思っていました。でも最近はそういうことが楽しみになってきています。理由はよくわかりません。1学期にあった球技大会で仲間と協力することの楽しさを知ったからかもしれません。とにかく今は、体育祭のチームの人たちやクラスの皆と、全力で何かをやり遂げたいなと思っています。

いま言ったことを忘れず、2学期にいい思い出がたくさんできるように楽しく過ごしていきたいと思います。



2学期の抱負

3年1組 新飯田 陸

僕の2学期の抱負は二つあります。一つは行事についてです。2学期は一番行事が多い学期です。その中でも自分が力を入れていきたいのは体育祭です。3年生にとって、今回の体育祭が中学校では最後となります。なのでこの3年生にも気合いとやる気があると思います。自分は赤軍の応援リーダーをしていますが、夏休みの限られた時間を有効に使って練習してきました。本番まで残り少ない日を充実させていきたいです。

もう一つは学習面です。自分は受験生ですが、正直いって実感がありません。なので今からでも日々の授業態度をよくしていきたいです。それから家庭での学習量も、部活が終わったので以前よりも増やしていきます。その成果を定期テストと毎月ある確認テストで発揮していきたいです。そして今学期を修了した段階で、自分が一回り成長したと思えるように努力していきます。



平成23年度 県大会等結果

<柔道>

男子団体	二中	1 - 4	燕中	負	
	二中	3 - 2	笹神中	勝	
	二中	2 - 3	小針中	負	予選リーグ敗退
女子団体	二中	0 - 3	佐々木中	負	1回戦敗退
男子個人	81 kg級	西方 優太	3位		北信越大会進出
	73 kg級	川村 諒	1回戦敗退		
女子個人	63 kg級	小林 優歩	1回戦敗退		

<卓球>

男子個人	横山 蓮	2回戦敗退
女子個人	佐藤 美祐	4回戦敗退 (ベスト16)

<水泳>

男子 50 m自由形	目黒 佑樹	12位
男子 100 m自由形	目黒 佑樹	14位

<陸上>

2年男子 100 m	古内 基晃	準決勝敗退
男子走幅跳	新庄 佑生	予選敗退

<吹奏楽コンクール>

中越地区大会	金賞	県大会進出
県大会	銀賞	ベスト16

北信越大会

<柔道>

男子個人 81 kg級	準優勝	西方 優太
-------------	-----	-------



三条市中学生広島派遣より

今年8月6日の広島平和記念式典に、市内全ての中学校から代表生徒が派遣され、本校からは3年生の宗村香奈江さんが参加しました。以下、感想を紹介します。

改めて平和について考えたこと

3年3組 宗村 香奈江

私は最初、二中を代表して広島に行くからには、たくさん平和について学び、二中のみんなに平和について語れるように頑張ってくると決めていました。今回の広島派遣では実際に原爆ドームを近くで見たり、平和記念式典に参加したりと、見て聞いて学ぶことができました。

1日目、各校それぞれで準備してきた千羽鶴を奉納しました。数えきれないほどの千羽鶴を目にしたときは、とても感動しました。奉納後、ずらりと並べてあった新聞を順に読んでいくと、戦争での苦しみ、戦後の病気での苦しみなど、読んでいくことが辛くなるような記事ばかりで、明るさが何もなかったのがとても印象的でした。今では全く想像がつかず、考えさせられるものとなりました。その後、原爆ドームを見学しました。今まで本やテレビなどでしか見たことがなかったので、原爆ドームの痛々しい姿は、とても迫力がありました。今では世界遺産に登録されている原爆ドームが物語る原爆の恐ろしさを、見て感じることができました。1日目はこのように、新聞を見て戦争の歴史を学び、原爆ドームを見て原爆の恐ろしさを体験することができるなど、内容の濃い一日となりました。

2日目、広島平和記念式典に参加しました。想像以上に人が多く、福島から来た方や、外国人の方など、子どもからお年寄りの方までたくさんの方が式典に参加していました。式典が始まり、8時15分に黙祷、それと共に平和の鐘が鳴り響きました。平和宣言では、広島市長さんが最後に述べた「原爆は二度とごめんだ」「こんな思いをほかの誰にもさせてはならない」という思いを新たに、「核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に全力を尽くすことを誓います。」という言葉を受け、私も心の中で誓いました。子どもを代表して、小学校6年生の男の子と女の子が、平和への誓いを述べました。まだ私たちのように若い世代には、戦争でのことや、平和に感謝するなど、そういったことを考えることがあまりないと思います。今の時代、この平和な時に生まれてきた私たちは、どんなに当たり前のことにも感謝の気持ちを持つべきだ、と改めて思いました。平和への誓いで、「私たちは、今を生きる人間として、夢と希望があふれる未来をつくるために、行動していく」という部分がありました。まだ私たちには未来があります。戦争で、たくさんの人たちの命を奪うとともに、夢と希望まで一瞬にして奪われました。その人たちの分も、今を生きる私たちが、明るい未来のために行動していくことが使命だと思います。小学生の平和への誓いを聞いて、そう決心することができました。初めて参加した広島平和式典は、とても心に残るものとなりました。その後、平和記念公園内を見学したり、平和記念資料館、国立原爆死没者追悼平和祈念館などを見学し、また袋町小学校平和資料館、旧日本銀行、広島城を見学しました。資料館には実物もたくさんあったので、友達と実物に触れてみたりして、たくさん学ぶことができました。夜になって、平和記念公園で灯ろう流しに参加しました。一人一人が思いを込めて作った手作りの灯ろうが、次々に流れているのを見て、とてもきれいだなと感動しました。2日目もとても充実した日となり、とても良かったです。

3日目は、新幹線の中でみんなと二日間の広島での思い出を語り合いました。結団式のときに顔合わせしたり、ちょっとした自己紹介をただけの9人でしたが、この広島を通して仲を深めることができました。こうしてたくさんの人と出会い、友達の輪が生まれるというのは、とても幸せなことです。毎日家族と話をしたり、友達に会うことができるというのは、当たり前ではなく、本当に本当に奇跡といっても過言ではないと思います。この時代、この平和な時に生まれてきた私たちであるからこそ、戦争の歴史を学び、語り継いでいくべきだと思います。私は広島で学んだことを、家族、そして学校の友達、全校生徒へと伝え、一人一人がまた家に帰った時に家族に話してもらって、どんどん広げていけるようにしたいと考えています。

最後に、今を生きる私たちが、これからも幸せで平和な毎日を送れることを願い、そしてこれから生まれてくる子供たちが、明るい未来に向かって生きていこうという希望が持てるように、今自分にできることから頑張っていきます。

